(証券コード：3626)

T I S 株式会社 会社説明会

2018年9月

TIS株式会社

1. T I S インテックグループとは？

T I S インテックグループとは？

**国内トップクラスの
企業向け総合 I T 企業です。**

**長年培った確かな知見と経験、
高い技術力で、
社会における様々な課題の
解決に貢献しています。**

会社概要

(代表取締役会長兼社長 桑野 徹)

商号	TIS株式会社
上場(証券コード)	東京証券取引所市場第一部(3626)
本店所在地	東京都新宿区西新宿8-17-1
創業	1971年
設立	2008年
グループ会社数 ※2018/3/31現在	連結子会社 : 45社 持分法適用会社 : 54社
グループ従業員数 ※2018/3/31現在	19,877名

連結売上高 ※2018年3月期	4,056億円
連結営業利益 ※2018年3月期	327億円
時価総額 ※2018/8/31終値ベース	4,705億円
株価 ※2018/8/31終値	5,360円
信用格付	A (長期) *1
単元株式数	100株
株主優待	なし

*1…株式会社日本格付研究所の信用格付(2017/11/10時点)

沿革・歴史

1971年設立

1964年設立

2008年4月経営統合

共同持株会社を設立

2016年7月 TISインテックグループスタート

ITホールディングスがTISを吸収合併、社名を「TIS株式会社」に変更

TISインテックグループの構成

様々な得意分野を持つ企業、計100社で構成されています。
 (当社、連結子会社45社、持分法適用会社54社)

主なグループ会社

会社名	株主構成		会社概要	2018年3月期業績 (百万円、単体ベース)	
				売上高	営業利益
TIS株式会社	—		クレジットカード業向けを中心に、サービス業・製造業向け等、幅広く展開。2016年7月に純粋持株会社 ITホールディングス株式会社(ITHD)と合併し、事業持株会社となる。 (1971年4月創業)	168,654	14,049 (8.3%)
株式会社インテック	TIS	100%	メガバンク・生保大手向けを中心に、地銀向けCRM展開や地方公共団体(北陸)向け等、幅広く展開。 (1964年1月設立)	115,040	7,071 (6.1%)
株式会社アグレックス	TIS	100%	主力のBPOではリーディングカンパニー。2013年10月よりグローバルBPO事業を開始。グループ内BPO事業の集約のため、2015年3月に100%子会社化。 (1965年9月設立)	31,036	1,286 (4.1%)
クオリカ株式会社	TIS コマツ	80.0% 20.0%	コマツの元・情報システム子会社。 コマツグループ向けを中心とする組立系製造業のほか、流通・外食業向けへ拡大中。 (1982年11月設立)	19,273	1,632 (8.5%)
AJS株式会社	TIS 旭化成	51.0% 49.0%	旭化成の元・情報システム子会社。 旭化成グループ向け中心。 (1987年3月設立)	12,956	1,088 (8.4%)

業績推移

● 2008年4月 グループ設立

● 2016年7月 事業持株会社体制へ移行

事業内容

顧客のシステムライフサイクルやIT関連業務を
ワンストップで最適サポートしています。

コンサルティングサービス	顧客の事業価値を高めるためのIT活用を支援
システムインテグレーションサービス	顧客の要望にベストマッチするシステムをワンストップで提供
アウトソーシングサービス	最新鋭のデータセンターで、ITシステム運用から業務代行（BPO）まで幅広く提供
IT基盤構築サービス	安全安心なネットワーク、ホストからパブリッククラウドまで、ニーズに応じて構築
先端技術の研究と提供	常に最新のIT技術を探求し、一步先行くシステムを提案

業界におけるポジション

独立系の総合IT企業として
リーディングカンパニーの地位を確立

TIS及び主要同業他社売上高 (億円) (2018年3月期)

業界環境について

情報サービス業の売上高推移 (億円)

出典：経済産業省、特定サービス産業動態統計調査

IOT **ビッグデータ**
第4次産業革命
Society 5.0
FinTech **AI**
ロボット

企業成長において
ITが不可欠な時代に

2. TISインテックグループの特徴

TISインテックグループの特徴 ①顧客基盤

約15,000社(国内)のビジネスパートナーとして、
お客様の成長に貢献し続けています。

自治体など
公共の仕組
みを支える

ものづくりの
現場を支える

流通・サービス
を便利にする

銀行の
仕組みを
支える

証券の
仕組みを
支える

電気・ガスなど
社会インフラを
支える

カード決済など
買い物を
便利にする

代表的なお客样例 (略称表記)

JCB

旭化成

サントリーグループ

コマツ

三菱UFJ銀行

日本生命保険

東京ガス

住宅金融支援機構

TISインテックグループの特徴 ①顧客基盤

金融業、製造業、非製造業（流通・サービス）、公共など、
幅広い顧客基盤を有しています。

顧客業種別売上高 (2018年3月期)

TISインテックグループの特徴 ②実績からみたプレゼンス

多彩な事業領域・業種におけるお客様のニーズにお応えする
ITサービスをご提供することで、
社会における様々な課題の解決に貢献しています。

安心安全な日々の
クレジットカード決済を支援
クレジットカード
基幹システム開発実績

国内市場シェア
約50%

(取引のある顧客のクレジット年間取扱高ベース)

国内のキャッシュレス決済を推進

ブランドデビットカード関連
サービス提供/システム開発実績

国内市場シェア
約80%

(取扱金融機関ベース)

電子商取引における業務の
効率化を支援

EDI

システム構築・運用実績

接続先数
約10万ID

外食産業専門の店舗管理システムとして
高評価

「TastyQube」

システム導入実績

国内市場シェア
約20%

(外食事業上位200社ベース)

金融機関における情報の一元管理、業務の
効率化と高度化を支援

「F³ (エフキューブ)」

導入実績

38行/64行

(地方銀行)

BPO業務で生産性の高い
経営戦略の推進に貢献

データエントリーサービス

取扱実績

年間

約8,000万レコード

安定した保険制度の基盤整備に貢献

国保連向け

システム導入・運用保守提供実績

12/47都道府県

電力自由化に伴う新電力事業者の
事業立ち上げに貢献

「エネLink」

利用実績

国内スイッチングシェア

約40%

ITサービスの提供により
様々な社会的課題を解決

TISインテックグループの特徴

②実績からみたプレゼンス

クレジットカード 基幹システム開発実績

国内市場シェア

約50%

(取引のある顧客のクレジット年間取扱高ベース)

TISインテックグループの特徴 ②実績からみたプレゼンス

**ブランドデビットカード
関連
国内市場シェア**
(サービス提供/システム開発実績)

約80%

(取扱い金融機関ベース)

つながれば見えてくる。新しい決済、次のビジネス

PAYCIERGE (ペイシエルジュ) は、TISの次世代リテール決済向け製品・サービス群を総称するブランド名称です。

カード

NFC Ring

Blockchain
仮想通貨

画像提供：Visa Worldwide

QR

Mobility

AR Shopping

キャッシュレス社会の実現に向け
事業展開を加速

Wallet

AIスマート
スピーカー

VR Payment

Copyright(C) 2017 Fairy Devices Inc.

TISインテックグループの特徴 ③事業基盤 – 国内事業拠点 –

東京・名古屋・大阪・富山を中心に幅広く事業拠点を配置、
また主要都市に**国内最大級のデータセンター網**を整備しています。

参考：最新鋭のアウトソーシング拠点

(写真：GDC御殿山の施設イメージ)

参考：最新鋭のアウトソーシング拠点

(写真：MSCCの施設内部イメージ)

TISインテックグループの特徴 ③事業基盤 – 海外事業拠点 –

ASEANを中心にグローバル拠点を整備、
現地の有力な企業との協業施策を積極的に展開しています。

中国・ASEANにおける展開拠点

近年の主なM&A・出資実績

PT Anabatic Technologies Tbk

売上高：385億円

2015年7月 資本・業務提携（28.0%出資＝持分法適用会社）
インドネシア証券取引所上場のインドネシア国内トップクラスのIT企業

顧客基盤

ソリューション

MFEC Public Company Limited

売上高：102億円

2014年4月 資本・業務提携（20.0%出資＝持分法適用会社）
タイの上場IT企業、エンタープライズ向けITソリューション提供のリーディングプレイヤー

顧客基盤

ソリューション

I AM Consulting Co., Ltd.

売上高：22億円

2014年6月 連結子会社化
タイにおけるSAP関連ITソリューションをトータルプロデュースするコンサルタント集団

顧客基盤

ソリューション

PromptNow Co., Ltd.

売上高：2.6億円

2016年5月 連結子会社化
金融機関向けに自社モバイルサービスを多数保有するタイの有力FinTechプレイヤー

ソリューション

TinhVan Technologies JSC.

2018年6月 資本・業務提携（19.9%出資）
ベトナム政府・金融機関への導入実績を多数有する有力ITサービスプロバイダー

顧客基盤

ソリューション

※売上高は各社の2017年12月期実績を期末レートで換算

※出資比率は2018年6月時点

TIS インテックグループの特徴 ④ 新技術分野への取組み

FinTech、IoT、AI等、新たな技術の進展や業界の潮流へ対応しています。

⇒オープンイノベーションを通じた迅速な
ビジネスモデルの変革と新規コアビジネスの立上げを推進

TISの目指す「イノベーションのエコシステム」

- 外部イノベーターとTISの顧客企業をつなぐことを通じた新たなビジネスの創出
- 「コーポレートベンチャーキャピタル」や産学共同研究による連携
- ブロックチェーン、AIなどの先端技術の獲得

TISインテックグループの特徴 ④新技術分野への取組み

国内のベンチャー/スタートアップ企業との主な協業例

QUADRAC株式会社
＜決済分野＞

株式会社エルブズ
＜AI分野＞

SEQSENSE株式会社
＜ロボティクス分野＞

ユニロボット株式会社
＜ロボティクス分野＞

海外の有力企業との主な協業例

R3 HoldCo LLC
＜ブロックチェーン分野＞

上海訊聯数据服务有限公司
(CardInfoLink)
＜決済(QRコード)分野＞

TIS インテックグループの特徴 ④ 新技術分野への取組み

ベンチャー投資制度「コーポレートベンチャーキャピタル」の創設

- 投資判断を最短1ヶ月程度で実施。
- 投資先の企業への資金提供だけでなく、TISのエンジニアなどの“ヒト”や、ワークスペースやIT資産などの“モノ”も提供する多面的な連携を行う。
- 投資後も新規ビジネス立ち上げの迅速化を図るため、単なる出資に留まらない手厚いサポートを実施。

オープンイノベーションを促進する新拠点『bit&innovation』の開設

- ベンチャー企業、スタートアップチーム、フリーエンジニアなどのイノベーター、大手企業の新規事業・R&D部門などの担当者、当社グループ関係者の三者による「コワーキングスペース」。
- スタートアップ企業および大手企業からのプレゼンなどの各種イベントや、最新の技術動向やマーケット動向をテーマにした勉強会を定期的で開催し、ビジネス創出機会の活性化を促進。

3. 中期経営計画

グループビジョン2026

2016年7月の事業持株会社体制への移行を機に、グループ役職員一同が力を結集して企業価値をさらに高めていくため、将来を見据えた新たなグループビジョンを策定（2017年5月発表）。

※2026年にTISインテックグループの中心となっているべき4つの事業領域

中期経営計画（2018-2020）の概要

Transformation to 2020

～グループ一体となり構造転換を実現し、社会の課題解決をリードする企業へ～

多様な社員が信頼・誇り・連帯感を持ち
生き生きと働いている
会社

バリューチェーン改革
による高付加価値化
(技術/社会研究成果を価値向上へ)

構造転換に向けた
成長投資額

3年間で
800 億円

構造転換

により戦略ドメイン売上割合
全体の50%

売上高 **4,300** 億円

営業利益 **430** 億円

営業利益率 **10** %

ASEAN地区

トップクラス
のIT連合体へ

経営効率化により

ROE **12%**

事業活動を通じて

環境・社会の

課題解決 に貢献する企業へ

中期経営計画（2018-2020）の基本方針

- ・事業を通じて社会課題を解決することで、社会とともにサステナブルな企業へ中長期的に利益を生み出す体質確立
- ・本社機能の高度化・効率化によりコスト削減

- ・社員が働きがいを実感できる環境、風土、制度作り
- ・構造転換を支える人財ポートフォリオを構築し、グループでの最適配置

継続的なスピードある構造転換

- ・成長エンジン伸長のための積極投資
- ・顧客提供価値の向上、生産性革新等を通じた既存分野の強靱化

- ・市場／顧客への先回り提案とビジネス創造を実現するための構造転換
- ・M&A、サービス投資等による戦略的な積極投資の拡大

- ・ASEANでトップクラスのIT企業連合体へ
- ・決済／銀行／ERPを中心にグローバルでの強みの強化

中期経営計画（2018-2020）のKPI

＜重要な経営指標＞ （2021年3月期）

戦略ドメイン比率

35% → 50%
(2018年3月期実績)

営業利益

327億円 → 430億円
(2018年3月期実績)

営業利益率

8.1% → 10%
(2018年3月期実績)

ROE

9.9% → 12%
(2018年3月期実績)

ROEのさらなる向上

成長投資の推進・財務健全性の確保・株主還元の強化のバランスのもと、
資本構成の適正化を推進し、**資本効率性の向上を目指します。**

株主還元強化

- ・ 総還元性向の目安を35%から40%に引き上げた上で、安定的な配当成長を通じて配当性向は2021年3月期に30%を目指す。
- ・ 保有する自己株式は原則として発行済株式総数の5%程度を上限とし、超過分は消却。

株主還元方針

総還元性向の目安を35%から40%に引き上げ、
配当性向は安定的な配当成長を通じて2021年3月期に30%を目指します。

一株あたり配当額の推移

総還元性向 (目安)
40%
(35%から引き上げ)

配当性向 (目安)
30%
(2021年3月期)

自己株式保有
5%程度を上限
(超過分は消却)

■ 年間配当金 ■ 配当性向

持続的な成長に向けて

最後に

当社グループのことをより一層ご理解いただくため、
統合報告書をご一読いただけますと幸いです。

<https://www.tis.co.jp/>

「IR情報」 > 「IR関連資料」から、統合報告書をはじめとした
最新のIR関連資料をダウンロードいただけます。

証券コード 「3626」

ご清聴ありがとうございました

<ロゴマークに込めた思い>

新たな挑戦の場を表現する「オーシャンブルー」と、堅実さと確かな技術の裏付けを表現する「インテリジェントグレー」の2色で表現されるロゴマークには、私たちのコアコンピタンスである『IT』2文字を包含しています。グループ各社が異なるエキスパートであり、その集合体としてのTISインテックグループの一体感、そして未来へ向かって進み続ける躍動感を表現しています。

<ブランドメッセージ「Go Beyond」>

現状に満足せず、常に新たなチャレンジを求めて「その先に向かって」歩み続ける。クライアントの課題をクリアするだけでは満足せず、クライアントのさらにその先にあるお客様のニーズを先取りして、「一歩進んだ提案をしていく」という当社グループの強い意思を表明しています。

(ご注意事項)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。